

---

## 高等教育におけるeポートフォリオシステム導入に関する一検討

し、科研費のように一部基金化された研究予算であれば、研究計画の進捗や執行状況に合わせて年度をまたいだ柔軟な執行が可能であるが、その他の補助金や競争的資金は、通常、年度決算の予算である。そのため、予算獲得し、学内にやっとシステムを導入するための委員会が立ち上がった頃には、eポートフォリオシステムの要件定義やシステム設計を取りまとめ、年度内に導入を完了するだけの期間がすでに足りないこともしばしばだと思われる。そのため、本来、学生や教員にとっての学習・教育を促進するための手段としてeポートフォリオシステムを導入するはずだったものが、いつの間にか、申請書類に計画した予算を年度内に執行するため、すなわちeポートフォリオシステムの導入自体が目的化するということが考えられる。

### 教育システムのカタログ化

eポートフォリオシステムの導入が目的化してしまった結果、要件定義もそこそこにして、とりあえず複数の教育システムベンダーから提案してもらい、eポートフォリオシステムのプロダクトのカタログを取り寄せ、まるで家電を選ぶように選定するようなことが起こることが考えられる。少なくとも、eポートフォリオシステムを開発する期間が足りない場合であっても、要件定義までは、最低限大学主導でやっておかなければ、プロダクトと要件とのすり合わせも不可能であり、予算ありきの選定となりかねない。

### 3. 要件定義

第2章で述べたように、要件定義の段階でeポートフォリオという単語を用いるのは、何を実現するためにどんな学習活動で活用されるのかが不明確であるため、なんとなくぼんやりとした議論で進んでしまう危険性がある。つまり、eポートフォリオという単語自体が議論する際に便利なパスワードになってしまっていることを認識し、注意すべきである。よって、eポートフォリオシステムを導入する目的をメンバー間で共有し、どのような学習活動をデザインしたいのかを議論するために、次のような方法を提案する。

#### eポートフォリオという言葉を使わない

eポートフォリオシステムで何を実現したいのか導入目的を明確にするために、eポートフォリオという言葉をあえて使わない。そうすることによって、

- ・ 学生が学習を深めるため
  - ・ 学生が就職活動などで自己PRに利用するため
  - ・ 大学および教員が学生の学習到達度をアセスメントするため
  - ・ 学生同士が同じ目標に向かって学び合う学習コミュニティを構築するため
- など、目標が明確になることが期待できる。

#### 具体的な学習活動を想定する

システム設計・開発において、ユーザの視点を取り入れることで、ユーザにとって使いやすく、安全で、作業効率を上げる手法として、シナリオ<sup>1</sup>の利用がある(1)。これは、教育システムにおいては、学習活動をシナリオと考えることが可能である。学生や教員が実際にシステムを使う場合、どのような学習活動を行うのかを具体化することで、必要な機能を明確にすることができ、ユーザにとって使いやすいシステムに近づけることが可能である。eポートフォリオを使った学習活動を整理するには、ワークスペースとショーケースのモデルが役に立つ(2)。

議論の結果、システムを使って想定される学習活動によっては、無理にeポートフォリオシステムではなく、他のシステムで代用した方がシンプルに実現できる可能性も検討すべきである。例えば、学習の蓄積と振り返りでであればブログ、作品集等のショーケースであればホームページ作成ツールを利用する等である。

### 4. まとめ

システム導入のプロセスは、一般的なものであっても、大学のシステム導入における会議体による議論の方法や、予算措置の問題など大学特有の問題の可能性について述べた。また、eポートフォリオシステムの要件定義でもeポートフォリオ自体がパスワードとなり、具体的な議論ができていない可能性を指摘した。

#### 参考文献

- (1) 郷健太郎, JohnM.Carroll, 今宮淳美, “ユーザの視点を取り入れる技術: システム開発におけるシナリオの役割”, 情報処理, 41(1):82-87 (2000)
- (2) Barrett, H.: “Balancing the Two Faces of ePortfolios”, Education for a Digital World 2.0 Innovations in Education, Vol.2, pp.289-307 (2011), [http://openschool.bc.ca/info/edu/7540006133\\_2.pdf](http://openschool.bc.ca/info/edu/7540006133_2.pdf)

<sup>1</sup> ユーザが目標を達成するために行う行動と、そこから得られる事象を、時系列に沿って記述したもの